

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング(装飾)など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 ジュエリー	・ジュエリー・アクセサリー商品の基礎知識の習得。 ・ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗(高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗)における市場調査による商品研究。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技法の習得。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きプレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショップリサーチレポート等。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 シューズ	・基本デザイン(モカシン・パンプス)の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・通年	120	4		○		○		○		
○			自由研究 I	各課題や個人の自由実習。通常授業以外の制作をすることによる、各個人のレベルアップ。 ・ブランド研究(帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究) ・文化祭バザー作品のグループ制作 ・各種コンテストの参加 ・美術館、博物館等の見学	1・通年	60	2			○	○	○	○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ハンディクラフトⅠ	各種のクラフトテクニックを、エンブroidアリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。 特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。 併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。 それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2			○	○		○		○
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。 一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2		○		○		○		
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○		△	○		○		
○			デッサンⅠ	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	60	2				○	○		○	
○			ファッションデザイン画	・衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する ・衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる ・ファッショングッズを引き立てる着装画としての表現力	1・通年	60	2				○	○		○	
○			グラフィックワークⅠ	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。	1・前期	60	2			○	○		○		
○			服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			素材論	繊維素材(各種繊維・糸・布地・染色加工)の種類・性質について基礎的な知識を習得させる。さらに繊維素材製品の展開などにも関連させ知識を深めることを教育の目標とする。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○		○		
○			クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○		○		
○			特別講義 I	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	60	2	○			○		○		

○	校外研修 I	都会生活から離れた「自然の中」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力や協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深めることを目的とする。規律を強調がいかに人間関係に潤いを与え、楽しい物であるかを知り、一人一人が規律正しい健康的な団体生活を送れるよう心がけ、相互理解を深める。	1・前期	30	1				○	○	○		
合計		18科目		1140単位時間(38単位)					
卒業要件及び履修方法								授業期間等					
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること								1学年の学期区分		前期・後期			
								1学期の授業期間		15週			
(留意事項)													
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。													
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。													

分類			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			2・通年	120	4			○	○		○		
○		バッグ パターンメイキング I	2・通年	120	4			○	○		○		
○		バッグ 制作実技 I A 9.小判底基本型 10. 図面	2・前期	90	3			○	○		○		
○		バッグ 制作実技 I B	2・後期	120	4			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		選択 帽子デザインⅡ	各テーマの目的に合ったデザイン発想と展開。デザインに合ったパターンの展開方法と表現技法を研究し、理解を深めてより完成度の高い作品制作を目指す。	3・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		選択 帽子パターンⅡ	1チップ(木型に変わる元型) — デザイン・制作実技 2チップ使用の帽子・春夏タイプ・秋冬タイプ — デザイン・制作実技 3布帛・パターンの応用展開 — デザイン・パターン・制作実技	3・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		選択 帽子制作実技ⅡA	4ブレード(ブレードミシン使用) — デザイン・制作実技 5 <マイブランドの商品サンプル>(グッズ・マーチャライジング・コスチュームアクセサリーと連動)(ブレードと同時進行) — デザイン・パターン・制作実技 6メンズハット — 制作実技	3・ 前 期	120	4			○	○		○		
	○		選択 帽子制作実技ⅡB	7卒業制作・各自のテーマ設定の下、4点以上(卒業研究・創作、コスチュームアクセサリーと連動) — デザイン・パターン・制作実技	3・ 後 期	150	5			○	○		○		
	○		選択 商品概論	帽子の商品としての価値観や知識を深め、業界や生産の仕組みを理解する。 企業デザイナーとして、ファッショントレンドや、地域性、価格帯別による違いなどからも商品提案できることを目標とする。	3・ 前 期	30	1	○			○		○		
	○		選択 レザーグッズ	ファッション小物を総合的に企画デザインするために、各種皮革素材の特性と制作技法についての知識を習得する。 また、ソフトタイプの皮革を使用した手袋やファッション小物を各自のデザインに合わせて制作する。	3・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		選択 ジュエリーデザインⅡ	・ジュエリー、アクセサリーにおけるより深い知識の習得を目指し、企業で即戦力として活躍できるスキルを目標とする。また、「作品創作」と「商品製作」の違いを理解した上で、デザイナーとして必要な商品企画力とプレゼンテーション力を養う。 1. ジュエリー制作における、道具を作る	3・ 通 年	60	2			○	○		○		

○	選択 ジュエリー 制作実技Ⅱa	2. 金属アレルギー対応のジュエリー提案で 考えられることについて 3. ジュエリーの歴史 4. 商品企画演習 デザイン 5. コスチュームジュエリーへのアプローチ 6. 卒業制作 店舗市場調査	3・ 通 年	90	3			○	○		○							
---	-----------------------	---	--------------	----	---	--	--	---	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--

(別紙様式 4)

(5/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
	○		選択 ジュエリー 制作実技Ⅱb	学生の自由な発想を時代の流れに融合し制作 の完成度を追求、社会の変化に柔軟に対応す る事を目標とする。	3・ 通 年	180	6			○	○		○				
	○		選択 ジュエリー 素材論	ジュエリー・アクセサリで使用される各種 素材の知識、理解を深める。 各素材の専門企業等による特別講義、見学な ども取り入れ、より専門的な知識を習得す る。	3・ 通 年	30	1	○		○	○		○				
	○		選択 ジュエリー 商品概論	ジュエリー・アクセサリ商品の知識を深 め、業界や流通の仕組みを理解する。 専門企業等の見学などを取り入れ、より専門 的な知識を習得する。	3・ 通 年	30	1	○			○		○				
	○		選択 エナメル ワーク	七宝技術(有線七宝)の習得とともに、色彩構成 の学習をする。 金属加工の技法、及び技術の習得(七宝制作の 胎作)。 金属とガラス素材の組合せによる表現方法。	3・ 前 期	30	1			○	○		○				
	○		選択 ジュエリー CAD	ジュエリー・アクセサリのデザインにおい て必須となった3D-CADでのデザインを 3DCADソフト『ライノセラス』を使用 し、その基本技術を習得する。 また仕事の現場での基本的な流れを知るた め、CADデータ作成の前段階である指示書の 作成も行う。	3・ 通 年	60	2			○	○		○				

○		メタルワーク	ファッションと親和性の高いスワロフスキー・クリスタルを使ったコスチュームジュエリーをデザイン、製作するための知識と基礎的な「よせもの」技術を、座学と実技により指導。 ファッショングッズ分野においても活用できる、デザイン企画やデザイン手法を習得。また、製作現場とのコミュニケーションを図る事が出来る程度の、基礎的知識と技術の体得。	3・前期	30	1	○	△	○	○			
○		コスチュームアクセサリ	創造性の追及と制作技法の研究から、オリジナルなトータルデザインと新たなアイテムの提案に取り組み、完成度を高めることを目標とする。	3・通年	120	4			○	○			○
○		グッズマーチャライジング	1.ファッション・マーチャライジング実務について指導を行い、シーズンMDの計画背景に基づいたプランニング実習を行い、企業で企画プランナー&デザイナーを目指す学生の為の教育を行う。 2.リエーターについての知識を深め、そのスタイルの元を知る。 3.帽子・ジュエリー単体ではなく洋服を含めたトータルでのスタイル表現の演習。	3・通年	120	4			○	○			○

(別紙様式4)

(6/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		選択 ファッショングッズデザイン画Ⅱ	ファッショングッズデザインワークのうえで即戦力として使えるデザイン画の習得と強化。就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び個々の創作デザインの企画構成力を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		選択 レンダリング	ジュエリーなどのデザイン表現を、個々それぞれの特性を引き出す創作デザイン考案とデザインワークの活かに。就職活動に活用できるポートフォリオ作成。企画デザイン力を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			デザインディレクション	デザインの発想と展開、作品の効果的な演出まで一貫した流れのなかで各個人の価値観を浮き彫りにしてゆく授業。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			ビジュアルプレゼンテーション	VPの社会的な役割を理解し、コンセプトやイメージに基づいたプランニング～実行までの作業を行う。 「作品」を「商品」として捉えることでよりビジネスに近い提案方法を実践する。 ピンワークのテクニックを学びVPや作品作りに活かす。	3・前期	30	1			○	○			○	

		○ 英会話	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増すこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級（中位）から中級まで。	3・通年	60	2				○	○		○		
--	--	-------	--	------	----	---	--	--	--	---	---	--	---	--	--

(別紙様式4)

(7/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅲ	ファッション全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	30	1	○			○				○
		○	インターシップ ^b	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では体験できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上とともに、就職に結びつける機会にする。	3・後期	30	1			○		○			○
○			卒業研究・創作	3年間の集大成として、各自が研究テーマを設定し企画デザイン創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学ぶことを目標とする。	3・後期	120	4			○	○				○
合計				14・15科目	1050単位時間(35単位)										
総合計				53・54科目	3360単位時間(112単位)										

卒業要件及び履修方法

授業期間等

単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること

1学年の学期区分	前期・後期
1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。